

2) 進行性筋ジストロフィー症の リンパ球 Subpopulation について

国立療養所長良病院

杉本公行 田口徹彦

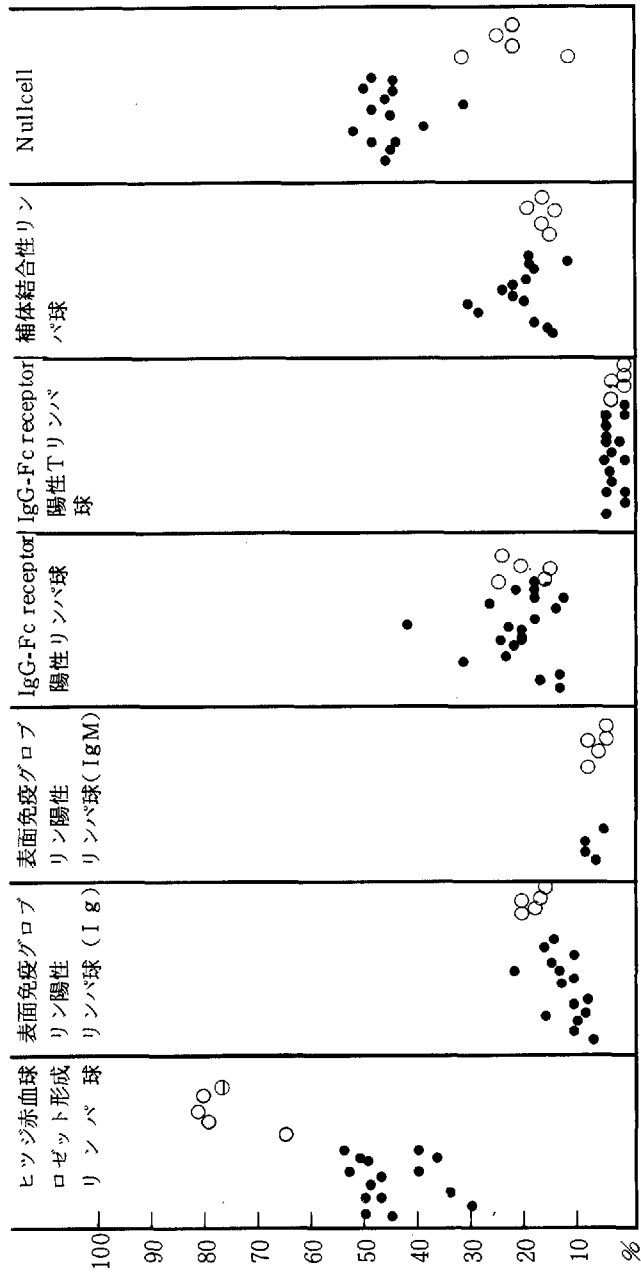
古田富久

〔方法〕

- 1) ヘパリン加血を Ficoll-Conray 法にて分離後 P B S にて 3 回洗滌し $2 \times 10^6 / ml$ に調整
 - 2) Chicken P B C 抗血清の作製
10% C R B C 5 ml を 4 日間隔でウサギに 5 回免疫後 7 日目に採血。Sephade \times G - 200 にて IgG 分離。
 - 3) Sheep R B C と IgG - E^{ck} A の Double Rosette 法。
 - ① 1% 濃度の IgG - E^{ck} A 0.1 ml とリンパ球浮遊液 0.1 ml 混和後 4℃ 24 時間静置。
 - ② 上清を除いて F C S 0.1 ml を加え、さらに 1% 濃度に F C S に浮遊させた S R B C 0.1 ml を加え静かに混和し軽く遠沈後 4℃ 24 時間静置。
 - ③ 静かに浮遊させロゼット形成細胞をかぞえる。
 - 4) 補体結合性リンパ球
E^{sh} A C とリンパ球浮遊液を等量混和し 37℃ で 1 時間 Incubate 。ついで 1 時間室温に静置後静かに浮遊させロゼット形成細胞をかぞえる。
 - 5) 表面免疫グロブリン陽性リンパ球
リンパ球浮遊液と抗ヒト免疫グロブリン蛍光抗体を等量加え 4℃ で 30 分間反応後 P B S で 3 回洗滌し蛍光顕微鏡にて陽性細胞をかぞえる。
- ④ 各リンパ球浮遊液にて塗抹標本を作製し単球混入率を算定。そのパーセントで実測値を補正した。

〔結果〕

ヒツジ赤血球ロゼット形成リンパ球の低下がみられたが、現在その意義については不明である。その他のレセプターは健康人と差はみられなかった。



(●患者 ○正常人)

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔方法〕

- 1)ヘパリン加血を Fico11-Conray 法にて分離後 PBS にて 3 回洗滌し 2 × 10⁶/ml に調整
- 2)Chicken PBC 抗血清の作製
10%CRBC5ml を 4 日間隔でウサギに 5 回免疫後 7 日目に採血。Sephade x G-200 にて IgG 分離。